
令和5年度 全国学力・学習状況調査

～登別市の調査結果～

令和5年度の登別市における調査結果の概要

○調査の概要

本調査は、義務教育の機会均等と水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力・学習状況を把握し、教育施策の成果と課題の検証により改善を図るとともに、学校での児童生徒への学習指導の充実や改善等に役立てること、加えて教育に関する継続的な検証改善サイクルの確立を目的として、全国の小学6年生と中学3年生を対象に平成19年度から継続実施されてきた。

今年度は、国語、算数・数学、中学英語の3教科に関する調査と、生活習慣や学習習慣等についての質問紙調査が行われ、登別市では、小学校292名、中学校296名が参加した。

また、出題形式は、平成31年度（令和元年度）より「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」を一体的に問うように構成されており、記述式の問題も一定割合で導入されている。

○教科に関する調査

- 小学校では、国語は全道の平均正答率をやや上回っているが、全国の平均正答率と同等である。算数は全道の平均正答率とほぼ同程度で、全国と比べるとやや下回っている。
- 中学校では、国語・数学・英語とも全道及び全国の平均正答率を下回っている。
- 無解答率については、小学校で、2教科とも全道及び全国と比べて記述式の設問における無解答率が低い。中学校で、3教科とも全道及び全国と比べて低い設問もあるが、記述式の設問における無解答率が特に高い。
- 教科ごとの傾向は、次のとおりである。

【国語】

小学校では、送り仮名に注意して文中で漢字を使うこと、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することはよくできている。原因と結果など情報と情報の関係について理解することに課題がある。中学校では、意見と根拠など情報と情報の関係について理解することはできている。自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことや文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして書くことに課題がある。

【算数・数学】

小学校では、伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中で知りたい数を求めることができている。百分率で表された割合について理解することに課題がある。中学校では、反比例の意味を理解することはある程度できている。目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することや結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することに課題がある。

【英語】

どの領域も全般的に課題があるが、日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることは一定程度できている。「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことや未来表現（be going to）の肯定文を正確に書くことに課題がある。

○児童・生徒質問紙調査

【自分について】

□ 「人が困っているときは、進んで助ける」「いじめは、どんな理由があってもいけない」と回答した小中学生の割合が、全国と比べて高い。

【地域や人との関わりについて】

□ 「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う」と回答した小中学生の割合が、全国の割合と比べて高い。

【家庭生活について】

□ 「毎日、同じくらいの時刻に起きている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した小中学生の割合が、全国の割合と比べて高い。

【家庭学習について】

□ 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり1時間以上勉強している」と回答した小中学生の割合が、全国の割合と比べて高い。

【学校での学習について】

□ 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれていると思う」と回答した小中学生の割合が、全国の割合と比べて高い。

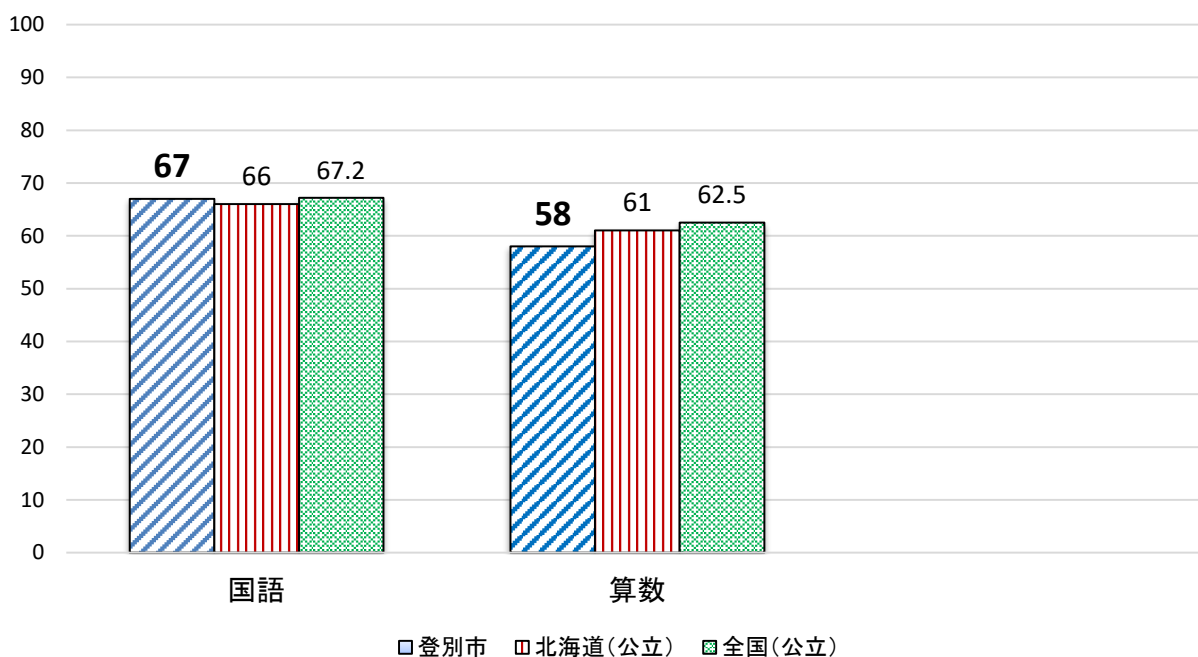
「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動をしている」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげる」と回答した小学生の割合が、全国の割合と比べて高い。

【ICT機器の活用について】

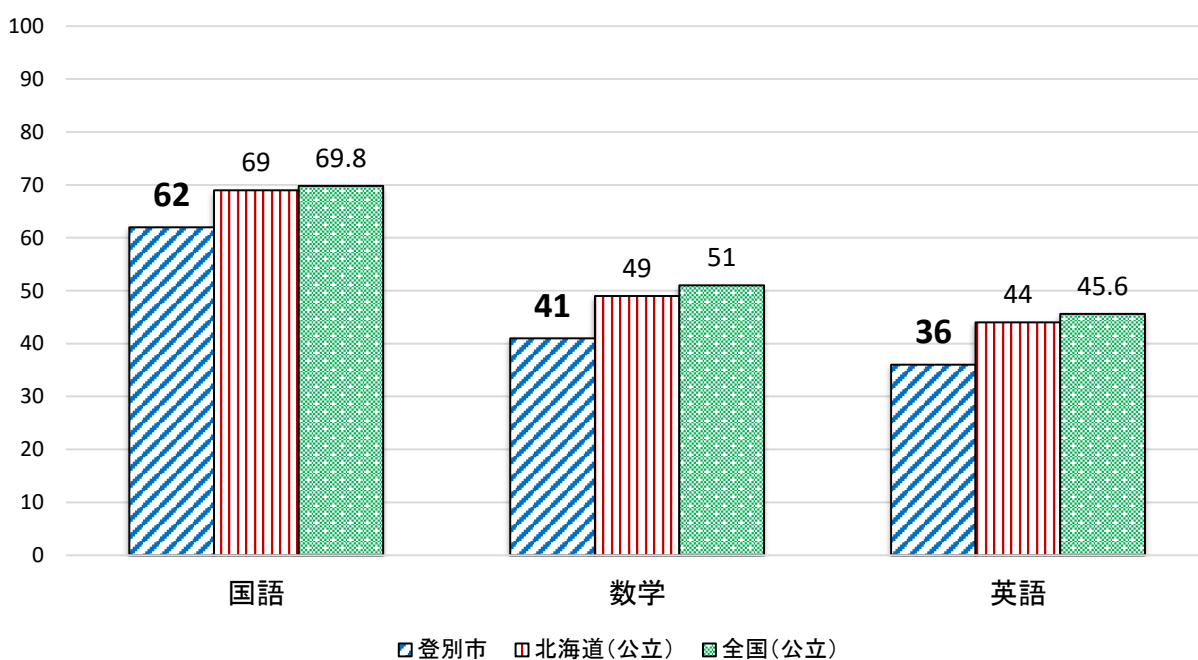
□ 「学習の中でICTは学習の役に立つと思う」「学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり1時間以上ICT機器を、勉強のために使っている」と回答した小中学生の割合は、全国の割合と比べて高い。

令和5年度 全国学力・学習状況調査「登別市の状況」 ～全道・全国との比較～

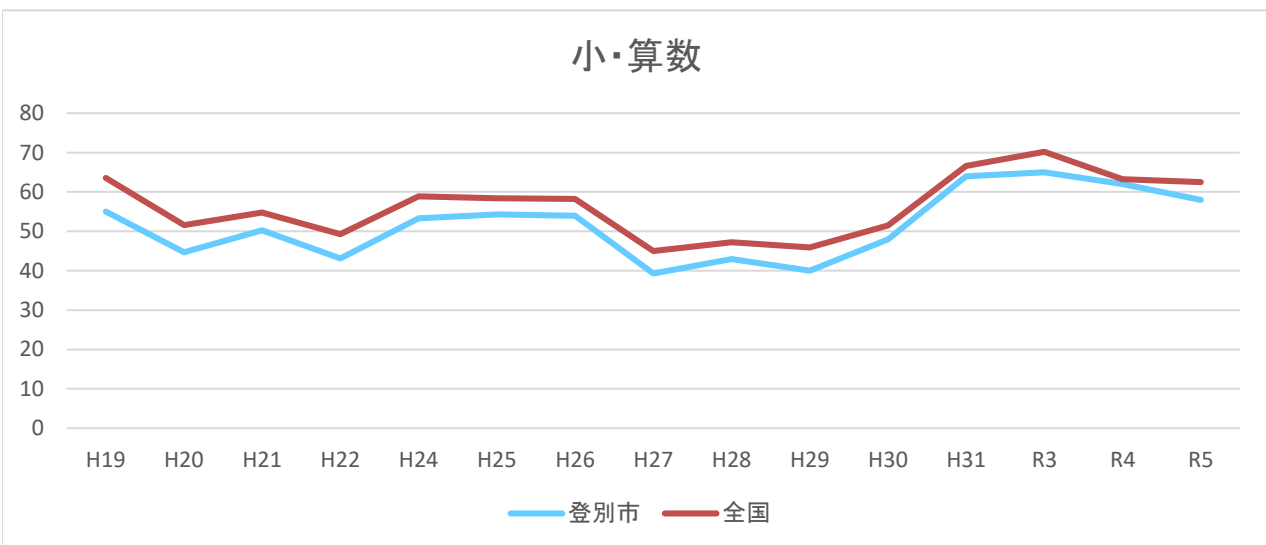
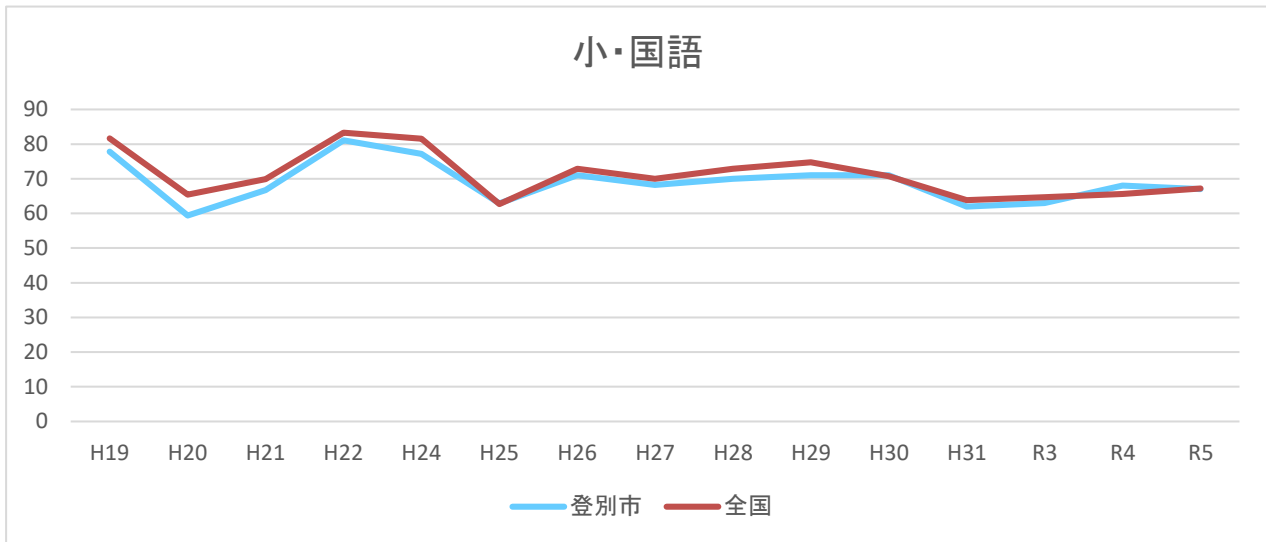
令和5年度 全国学力・学習状況調査結果
【小学校】



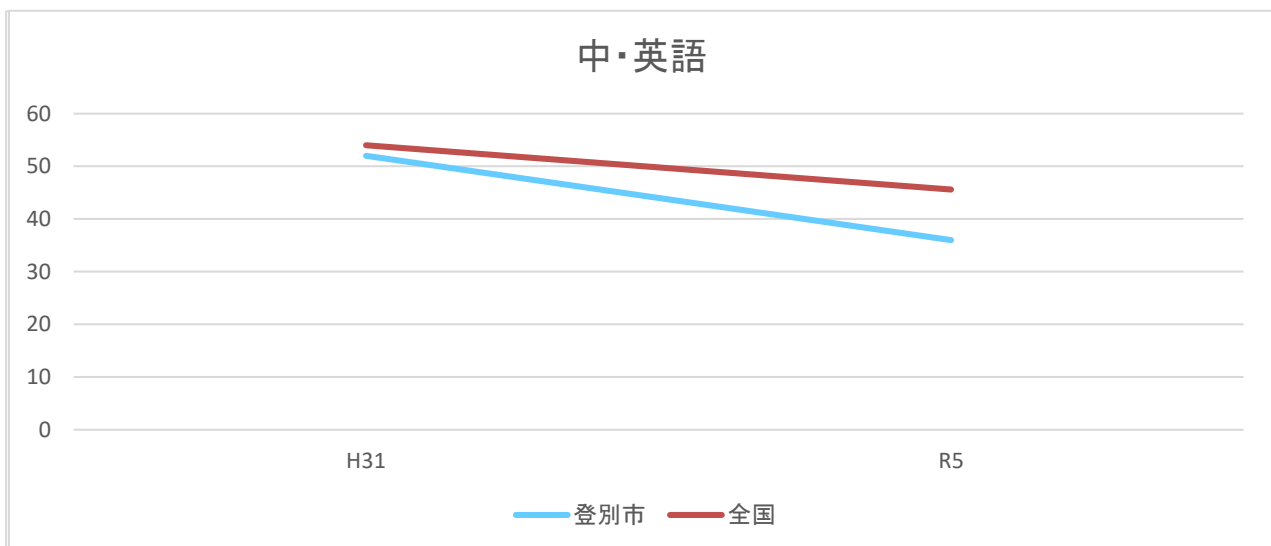
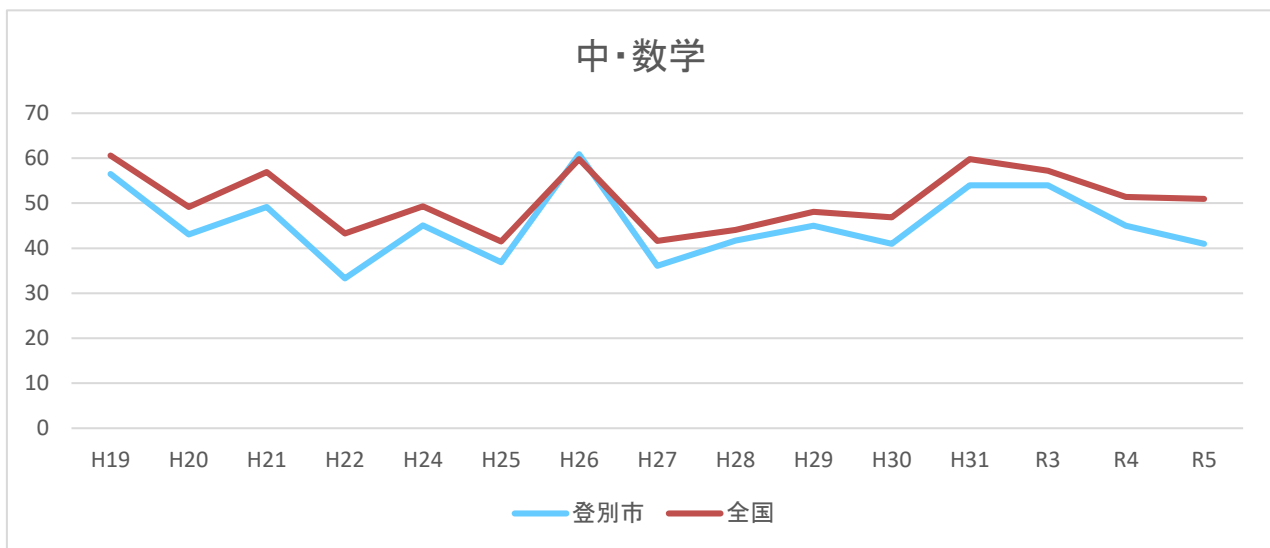
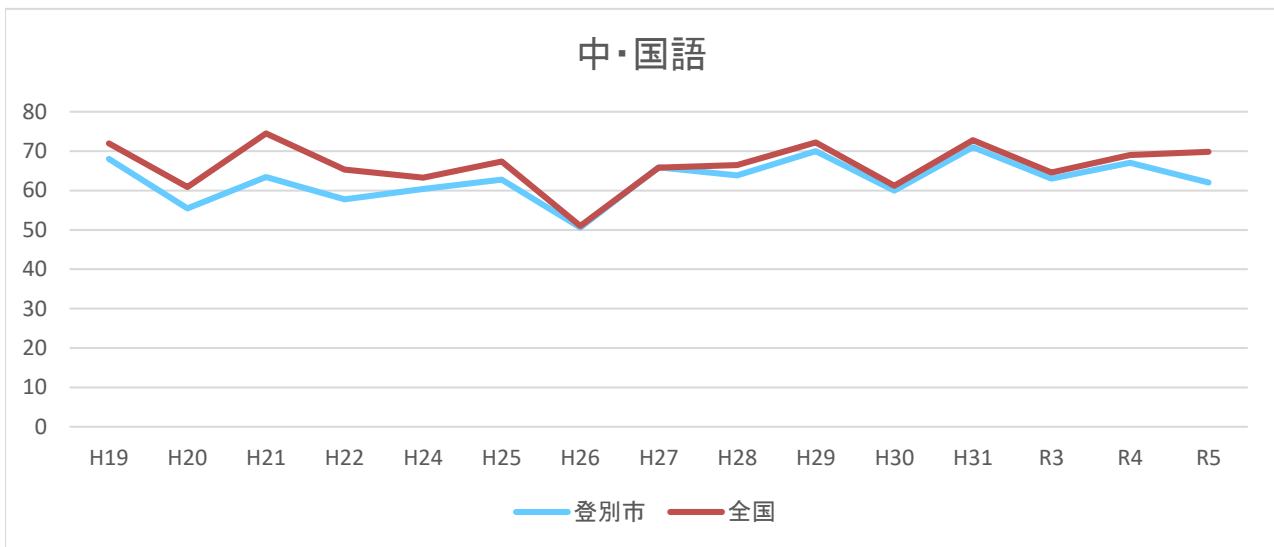
令和5年度 全国学力・学習状況調査結果
【中学校】



小学校 調査結果の経年変化 ～全国との比較～



中学校 調査結果の経年変化 ～全国との比較～



～小学校・国語における調査結果の概要～

【話すこと・聞くこと】

(学校ボランティアのたちへのインタビューの様子)

○大問3二

寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、わかったことをまとめて書く問題

- ・正答率72.3% (全国70.2%)
無解答率12.3% (全国14.3%)
- ・目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができている児童の割合が高い。

○大問3一(1)

質問した理由として適切なものを選択する問題

- ・正答率70.2% (全国73.6%) 無解答率3.1% (全国3.7%)
- ・必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を概ね捉えることができているが、正答率が全国平均を下回っている。

【書くこと】

(学校の田んぼで取り組んだ米作りについて文章を書く)

○大問1 設問二

川村さんの文章の空欄に学校の米づくりの問題点と解決方法を書く問題

- ・正答率31.2% (全国26.7%) 無解答率5.5% (全国7.1%)
- ・図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することが全国平均を上回っている。

【読むこと】

(健康に過ごすために、複数の文章を読選んで読み、自分の考えをまとめる)

○大問2 設問一

【資料1】と【資料2】に係れている内容として適切なものを選択する問題

- ・正答率91.8% (全国90.0%)、無解答率0.3% (全国1.2%)
- ・目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することがほぼできている。

○大問2 設問二

【相田さんのメモ】の空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する問題

- ・正答率64.0% (全国67.4%)、無解答率0.7% (全国1.4%)
- ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができる程度できているが、全国平均を下回っている。

【知識・技能】

(学校の田んぼで取り組んだ米作りについて文章を書く)

○大問1 設問三(2)イ

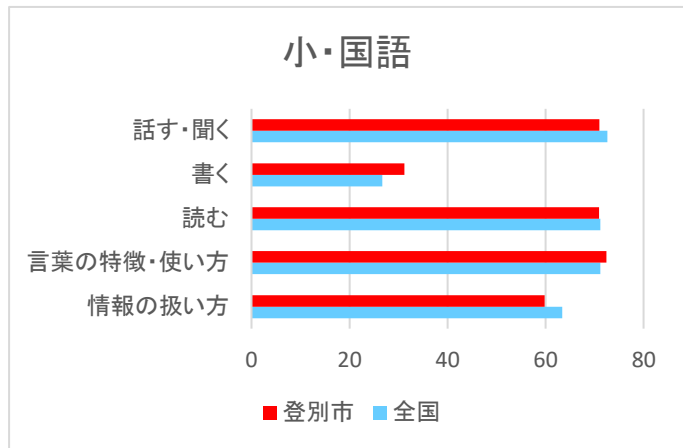
【川村さんの文章】の下線部イを、送り仮名に気を付けて書き直したものとして適切なものを選択する問題

- ・正答率93.8% (全国93.1%) 無解答率0.0% (全国1.0%)
- ・送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができている。

○大問1 設問四

【川村さんの文章】の特徴の説明として適切なものを選択する問題

- ・正答率80.8% (全国79.8%) 無解答率1.0% (全国2.0%)
- ・文章の種類とその特徴について理解することができる。



◎質問紙調査から

「国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめる」という質問に対し、肯定的な回答をした割合は80.5%（全国76.8%）で、全国と比べて3.7ポイント高い。また、「国語の授業で、書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている」という質問に対し、肯定的な回答をした児童の割合は82.6%（全国71.1%）で、全国と比べて11.5ポイント高い。各校で考えたことをより良い文章に推敲する指導をしていることが伺える。また、上記以外の国語に関する「国語勉強は好きである71.5%（全国61.5%）」「国語の授業はよくわかる90.3%（全国85.7%）」など、国語に関するすべての項目に関して肯定的な回答が全国平均を上回っていることから、引き続き児童の学習意欲を高め、学習内容の定着を図る指導を続けることが大切がある。

◎授業改善のための方策

【話すこと・聞くこと】

○話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる

「考えをまとめる」とは、話し合いを通して様々な視点から検討し、互いの意見の共通点や相違点、利点や問題点等をまとめることである。授業改善の視点としては、話の内容を十分に聞き取り、自分が求めている情報や聞いた内容をどのように生かそうとするのかなどを明確に聞くことを意識させることが大切である。また、自分の考えと比較する経験を積み重ねることが重要である。

【書くこと】

○引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する

「引用」して書くとは、本や文章などから必要な語句や文を抜き出して書くことであり、「図表やグラフ」を用いて書くとは、示すべき事実が、図解したり、表形式やグラフ形式で示したりした方がわかりやすい場合に図表やグラフを活用して書くことである。授業改善の視点としては、まず、何のために引用したり、図表やグラフを用いたりするのかという目的を明確にすることである。次に、引用した部分や図表から伝えたい内容と自分の考えとの関係を明確にすることが大切である。また、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文を推敲することが重要である。友達が書いたものと自分の書いたものを比較して推敲するには、学習端末の活用が有効である。

【読むこと】

○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考える

目的に応じて、必要な情報を見つけるとは、書き手の述べたいことを知るために読む、読み手の調べたいことを調べるために読むなどの目的に応じて、文章の中から必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることである。授業改善の視点としては、必要な情報は、目的に応じて変わるため、読む目的を明確にすることである。また、書き手は自分の考えを適切に伝えるために、どのように論を進めるとよいのか、どのような理由や事例を用いることで説得力を高めようとするればよいのかなどについて考えをもつような授業づくりが大切である。

【知識・理解】

○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付く

言葉には、話し手と聞き手の間に好ましい関係を築き、継続させる働きがある。授業改善の視点としては、上記の言葉の働きを常に心がけた児童と教師、児童同士の対話を大切に学習を意識して進めることが大切である。

～小学校・算数における調査結果の概要～

【数と計算】

(目的に応じて数量の関係に着目し数の処理の仕方を考察すること)

○大問1 設問(4)

全部の椅子の数を求めるために、 50×40 を計算する問題

- ・正答率78.8% (全国80.8%)
無解答率は0.3% (全国3.0%)
- ・一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算が概ねできている。

○大問3 設問(3)

$(151 + 49) \times 3$ と $151 \times 3 + 49 \times 3$ を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める問題

- ・正答率69.55% (全国72.4%)
無解答率は3.8% (全国2.5%)
- ・加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりして計算することが概ねできている。

【図形】

(図形の意味や性質を基に図形の構成の仕方を考察すること)

○大問2 設問(2)

テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名前を書く問題

- ・正答率86.6% (全国87.2%) 無解答率2.1% (全国2.9%)
- ・正方形の意味や性質について理解している。

○大問2 設問(1)

テープを2本の直線で切ってできた四角形の名前と、その四角形の特徴を選ぶ問題

- ・正答率55.1% (全国59.8%) 無解答率0.0% (全国0.7%)
- ・台形の意味や性質について、あまり理解していない。

【変化と関係】

(二つの数量の関係について考察すること)

○大問1 設問(1)

5脚の椅子を重ねたときの高さを求める問題

- ・正答率94.9% (全国93.5%) 無解答率0.3% (全国0.8%)
- ・伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができている。

○大問4 設問(1)

示された基準量との比較量から、割合が30%になるものを選ぶ問題

- ・正答率33.9% (全国46.0%) 無回答率2.1% (全国2.4%)
- ・百分率で表された割合について苦手としている。

【データの活用】

(目的に応じてデータの特徴や傾向を捉え考察すること)

○大問4 設問(2)

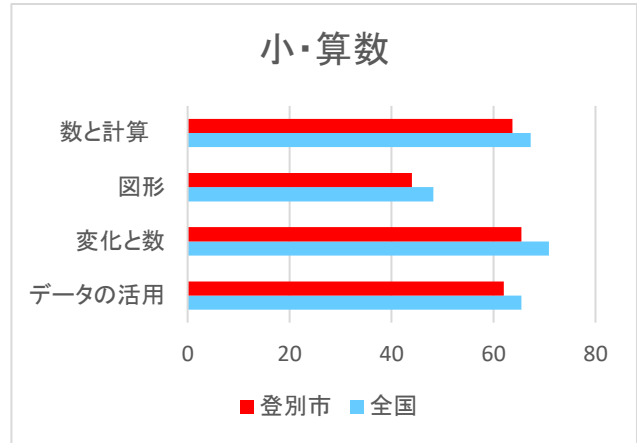
運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める問題

- ・正答率71.9% (全国75.7%) 無解答率4.5% (全国4.3%)
- ・「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を7割以上読み取ることができているが、全国平均を下回っている。

○大問4 設問(3)

二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く問題

- ・正答率56.5% (全国56.2%) 無解答率12.0% (全国13.8%)
- ・示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述することが、全国平均を上回っている。



◎質問紙調査から

「算数の勉強が好きである64.1%（全国61.4%）」「算数の授業内容がよくわかる86.2%（全国81.2%）」「算数で学習したことは、将来役立つ95.6%（全国93.3%）」という質問に対し、肯定的な回答をした児童の割合が全国より高い。このことから、日々の授業において、児童の意欲を引き出す、丁寧に教える、日常生活で算数を使う場面を取り入れるなどの授業が行われていることが推測される。一方、「今回の算数の問題での解答時間が十分である81.0%（全国84.5%）」という質問に対し、肯定的な回答をした児童の割合は、全国平均を下回った。このことから、学習内容の定着が十分ではないため、問題を解くことに時間がかかったことが推測される。

◎授業改善のための方策

【数と計算】

○目的に合った数の処理の仕方を考えることができるようにする

示された日常生活の場面を解釈し、計算を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述することが大切である。授業改善の視点としては、まず、問題内容を正しく読み取ることである。それをもとに、どのような計算や考えを使えばよいのかを確認することが大切である。次に、授業内で児童が自分の考えをまとめたり、表現したりする場や機会を十分確保することである。児童が、国語科で身に付ける「自分の考えと他者の考えを比較する活動」を活用し、明瞭で簡潔な式や言葉を使い説明できるようにすることが重要である。

【図形】

○図形の意味や性質について理解できるようにする

図形を構成する要素やそれらの位置関係に着目して図形の性質について考察することが大切である。授業改善の視点としては、まずは、辺の数、面の数、角の数などに着目させる。また、図形を、辺の長さや核の大きさが等しいかどうかに着目して分類できるようにする。次に、辺と辺、辺と面、面と面の間にある垂直、平行といった位置関係、辺の長さや角の大きさの間にある数量的な関係を正しく読み取るようにする。また、紙を折ったり切ったりする、コンパスや定規分度器を用いて作図をする活動をとおして、学習内容の定着を図ることが大切である。コンピュータを活用すると立体図形の理解にも有効である。

【変化と関係】

○伴って変わる二つの数量の関係を捉えて考察できるようにする

伴って変わる二つの数量を見だし、それらの関係に着目し、規則性などを見付けていくことが大切である。授業改善の視点としては、例えば、椅子の数と高さの関係について考える場面では、表から分かる二つの数量関係から、一つの数量を決めれば他方の数量が決まるかどうか、あるいは、一方の数量は他方の数量に伴って一定の決まりに従って変化するか、といった見方でみて、二つの数量の関係に着目するようにする。また、数量の関係を式に表したり、式と言葉を使って説明したりすることが重要である。

【データの活用】

○統計データの特徴を読み取り判断したり、結論について多面的・批判的に考察できるようにする

二次元の表から、条件に合う数を読み取ることが大切である。授業改善の視点としては、まずは一つの観点から表を読み取り、次にもう一つの観点から表を読み取るようにする。例えば、運動の好き嫌いと一週間に30分以上運動をした日数が表された二次元の表からは、まず運動の好き嫌いに着目し、好きな人の数と嫌いな人の数を読み取る。次に一週間で30分以上運動をした日数に着目し、2日以下の人数と3日以上の人数を読み取るなど、段階的に読み取るようにする。児童がデータの特徴を理解した上で、条件に合う数量を読み取ることが大切である。

～中学校・国語における調査結果の概要～

【話すこと・聞くこと】

(会社を訪問して星野さんにインタビューをする様子)

○大問1 設問一

インタビューの前に準備したメモについて説明したものとして適切なものを選択する問題

- ・正答率85.8% (全国87.5%)
無解答率0.0% (全国0.1%)
- ・全国平均を下回っているが、目的や場面に応じて質問する内容を検討することはできている。

○大問1 設問三

相手の話を受けて発した質問について、述べ方の工夫とその意図を説明したものとして適切なものを選択する問題

- ・正答率73.6% (全国76.6%)
無解答率0.0% (全国0.2%)
- ・話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することが概ねできている。

【書くこと】

(興味をもったことをレポートにまとめる)

○大問3 設問一

レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する問題

- ・正答率43.9% (全国54.3%) 無解答率0.7% (全国0.6%)
- ・全国平均を下回っており、読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることを苦手としている。

【読むこと】

(「原版」と「現代語訳」を読み比べる)

○大問4 設問三

現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く問題

- ・正答率は40.5% (全国50.0%) 無解答率31.8% (全国20.7%)
- ・全国平均を下回っており、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることを苦手としている。

【知識・技能】

(会社を訪問して星野さんにインタビューをする様子)

○大問1 設問二

インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する問題

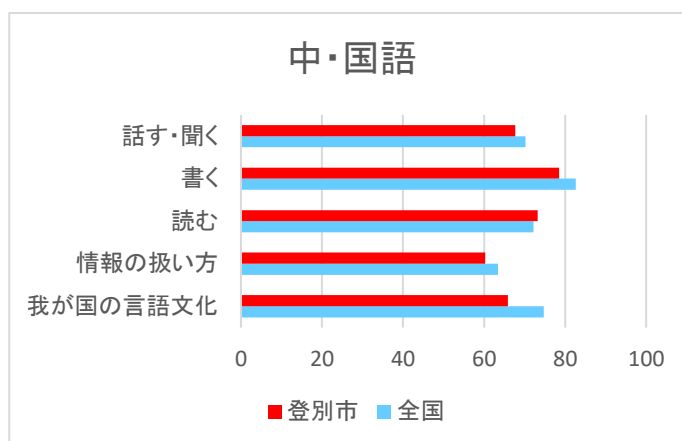
- ・正答率68.9% (全国65.13%) 無解答率0.0% (全国0.2%)
- ・意見と根拠など情報と情報がとの関係について概ね理解している。

(「都会のビーチ」)

○大問2 設問一

「落胆する」の意味として適切なものを選択する問題

- ・正答率89.9% (全国91.1%) 無解答率0.3% (全国0.2%)
- ・事象や行為、心情を表す語句について理解できている。



◎質問紙調査から

「国語の勉強は好き62.6%（全国61.4%）」「国語の勉強は大切93.2%（全国92.4%）」「国語の授業の内容はよく分かる80.5%（全国80%）」「自分の考えが伝わるように書く67.1%（全国63.9%）」などの質問項目に対し、肯定的な回答をした中学生の割合は、全国の割合と比べて高い。

「わかりやすく伝えるために話し方を工夫する61.3%（65.9%）」という質問項目について、肯定的な回答をした中学生の割合は全国の割合と比べて低い。今後は、授業でわかりやすく伝えるために目的意識や相手意識を明確にし、話し方を工夫する場や機会を確保することが大切である。

◎授業改善のための方策

【話すこと・聞くこと】

○論の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる

説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする活動やそれぞれの立場から考えを伝えるなどして、議論や討論をする活動を通して、自分の考えをまとめることが大切である。授業改善の視点としては、まずは、何のために話し合うのかという学習の目的を明確にすることである。また、自分の考えをまとめる際、友達の考えとの比較から、自分がどのような考えに変わったり、深まったりしたのかということ自分の言葉でまとめるようにする。

【書くこと】

○自分の考えが伝わるような文章になるために、根拠を明確して書く

自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にすることが大切である。授業改善の視点としては、まず、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認する場を設定する。その上で、根拠を文章の中に記述する必要があることを理解し、文章を書くように指導する。書いた文章は友達同士で読み合い、それを受けて練り直すようにする。

【読むこと】

○文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握する

説明や記録などの文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり、文章にまとめたりすることが大切である。授業改善の視点としては、読む目的を明確にすることである。また、目的に応じて必要な情報を見付けながら読むようにする。必要な情報を学習端末等で共有し、自分と他者の文章を比較することで、読みの精度を高めるなどの工夫も考えられる。

【知識・技能】

○具体と抽象など情報と情報の関係について理解する

抽象的な概念を表す語句の量を増やすとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことをとおして、語彙を磨き語彙を豊かにすることが大切である。授業改善の視点としては、「話す・聞く」「読む」「書く」などの学習全般をとおして、ある言葉を別の表現にしたり、学んだ言葉を積極的に使ったりするようにする。

～中学校・数学における調査結果の概要～

【数と式】

(正の数と負の数についての理解)

○大問 1

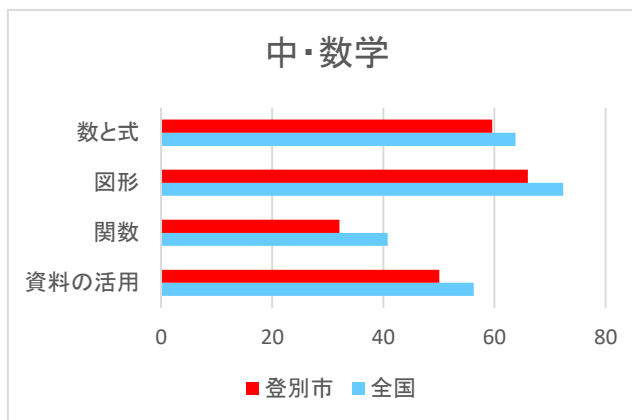
－5、0、3、4、7、9の中から自然数を全て選ぶ問題

- ・正答率47.1% (全国46.1%)
無解答率0.0% (全国0.1%)
- ・全国の平均正答率を上回っているが、あまり理解できていない。

○大問 6 設問 (1)

はじめの数が11のとき、はじめの数にかける数が2、たす数が3のときの計算結果を求める問題

- ・正答率85.1% (全国88.9%)
無解答率4.1% (全国2.4%)
- ・問題場面における考察の対象を明確に捉えることが、概ねできている。



【図形】

(図形の考察)

○大問 9 設問 (1)

2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する問題

- ・正答率18.9% (全国32.1%)、無解答率39.9% (全国24.7%)
- ・ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することを苦手としている。

○大問 9 設問 (2)

二等辺三角形でない2つの合同な三角形のときに平行線がかけないことについて、二等辺三角形のときの証明の中から成り立たなくなる式を書く問題

- ・正答率26.4% (全国37.0%)、無解答率25.0% (全国14.2%)
- ・条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることを苦手としている。

【関数】

(反比例)

○大問 4

yがxに反比例し、比例定数が3のとき、xの値とそれに対応するyの値について、正しい記述を選ぶ問題

- ・正答率46.3% (全国42.8%)、無解答率0.0% (全国0.5%)
- ・全国の平均正答率を上回っているが、あまり理解できていない。

(日常的な事象の数学化と問題解決の方法【駅伝】)

○大問 8 設問 (2)

二人の選手のグラフが直線で表されていることの前提となっている事柄を選ぶ問題

- ・正答率47.0% (全国61.7%)、無解答率1.7% (全国1.1%)
- ・事象を理想化、単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することを苦手としている。

【データの活用】

(累積度数)

○大問 5

女子50m自由形の記録の、最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数を求める問題

- ・正答率38.5% (全国46.1%) 無解答率12.8% (全国11.0%)
- ・累積度数の意味を理解することを苦手としている。

(データの傾向を読み取り、批判的に考察して判断する)

○大問 7 設問 (1)

1961年から1975年の分位範囲を求める問題

- ・正答率55.4% (全国65.7%) 無解答率8.4% (全国5.6%)
- ・四部範囲の意味を理解することがあまりできていない。

◎質問紙調査から

「数学の勉強は好き49%（全国50.7%）」「数学の勉強は大切81.6%（全国85%）」「数学の授業がよくわかる63.7%（全国73.3%）」「数学の授業で学習したことは社会で役立つ69.5%（全国75.8%）」という設問に対し、肯定的な回答をした生徒の割合はいずれも全国の割合を下回っている。このことから、「何のために学習するのかという目的を明確にすること」「中学生がわかりやすいと感じる授業をすること」「学習内容の定着を図ること」を重視することが大切である。学習内容が定着すると数学に対して肯定的な感情を抱くようになることが考えられるため、きめ細やかな指導を続けることが大切である。

◎授業改善のための方策

【数と式】

○文字を用いた式の四則計算をできるようにする

文字を使って数や図形の性質を説明したり、方程式を解いたりする場面では、形式的な処理によって容易に結果が得られるようにするために、項の意味や計算の法則に着目して文字を用いた式の計算や処理をすることが大切である。授業改善の視点としては、1人1台端末を活用したり、学習内容が定着するよう繰り返し取り組む場や機会を設定したりするなど、一人ひとりの学習状況を丁寧に把握し、個に応じた指導を充実することである。

○構想を立てて説明し、問題解決の過程や結果を振り返って考えることをできるようにする

数に関する事象を考察する場面では、成り立ちそうな事柄を予想し、予想を確かめ、事柄が成り立つ理由について筋道を立てて説明すること、さらに、問題解決の過程や結果や事象の特徴を的確に振り返ることが重要である。授業改善の視点としては、中学生が書いた説明を友達と共有し、互いに比較することで、よりよい説明へ改善することである。

【図形】

○図形の性質を考察する場面において、事象を数・量・図形等に着目して観察したり、空間における平面が一直線上にない3点で決定されることを理解したりできるようにする

図形の性質を考察する場面では、空間における直線や平面の位置関係を捉えることが大切である。授業改善の視点としては、コンピュータを活用し視覚的に理解しやすい学習を取り入れるなどをすることが大切である。

【関数】

○事象における数量の関係を見だし考察する場面において、事象に即して理解したり、事象を理想化単純化したり、説明したりすることをできるようにする

日常生活や社会の事象を考察する場面では、事象を理想化したり単純化したりして、その特徴を的確に捉え、事象を数学的に解釈することが求められる場合がある。その際、問題解決の方法を考え、それを数学的に説明することが大切である。授業改善の視点としては、まずは、正しく解釈することである。そして、どのように考えると理解し、解決できるのかという見通しをもつことである。中学生がじっくり考える場や機会を設定することが重要である。

【データの活用】

○データの傾向を読み取り、批判的に考察し判断できるようにする

日常生活や社会の事象を考察する場面では、表やグラフなどからデータの傾向を読み取り、批判的に考察し判断することが求められる場合がある。その際、判断の理由を数学的に説明することが大切である。授業改善の視点としては、判断の理由を友達と話し合い、表やグラフのデータを根拠としているのか確かめ合うようにする。そして、自分の説明を見直し、考えを深めるようにする。

～中学校・英語における調査結果の概要～

【聞くこと】

(情報を正確に聞き取る)

○大問 1

ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する問題

- ・正答率69.7% (全国79.0%)
無解答率0.0% (全国0.1%)
- ・情報を正確に聞き取ることがある程度できているが、全国平均を大きく下回っている。

(目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取る)

○大問 2

忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する問題

- ・正答率58.2% (全国61.1%)
無解答率0.0% (全国0.2%)
- ・日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることがある程度できているが、全国の平均正答率をやや下回っている。

【「読むこと」】

(情報を正確に読み取る)

○大問 5 (1)

ある状況を描写する英文を読み、その内容を最も適切に表しているグラフを選択する問題

- ・正答率45.9% (全国56.0%)
無解答率0.0% (全国0.3%)
- ・全国平均を大きく下回っており、情報を正確に読み取ることが苦手としている。

○大問 5 (2)

事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する問題

- ・正答率49.0% (全国64.5%)
無解答率0.0% (全国0.3%)
- ・全国平均を大きく下回っており、「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言葉の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことを苦手としている。

【書くこと】

(文法事項や言語の働きなどを理解して正確に書く)

○大問 9 (1) ①

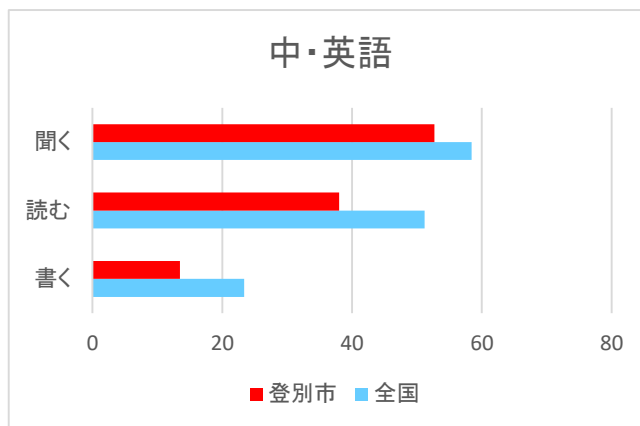
与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる問題

- ・正答率26.2% (全国40.4%)
無解答率10.2% (全国6.6%)
- ・全国平均を大きく下回っており、未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことを苦手としている。

○大問 9 (2)

メールの英文を依頼する表現に書き換える問題

- ・正答率17.0% (全国39.1%)
無解答率39.1% (全国24.5%)
- ・全国平均を大きく下回っており、「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことを苦手としている。



◎質問紙調査から

「英語の勉強は好き44.5%（全国51.9%）」「英語の勉強は大切78.8%（全国90.0%）」「英語の授業がよくわかる56.5%（全国63.9%）」「英語の授業で学習したことは社会で役立つ77.1%（全国87.5%）」という設問に対し、肯定的な回答をした生徒の割合はいずれも全国の割合を下回っている。このことから、「何のために学習するのかという目的を明確にすること」「中学生がわかりやすいと感じる授業をすること」「学習内容の定着を図ること」「学んだことが役立つと実感できる場や機会を設けること」を重視することが大切である。学習内容が定着し、活用する場や機会があるとすると英語に対して肯定的な感情を抱くようになることが考えられるため、きめ細やかな指導を続けることが大切である。

◎授業改善のための方策

【聞くこと】

○自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるようにする

「必要な情報を聞き取る」とは、複数の情報が含まれるまとまりのある内容の英語を聞き、話されることの全てではなく、聞き手として目的に応じて知りたいことや欲しい情報などを聞き取ることである。授業改善の視点としては、まず生徒がまとまりのある内容の英語を聞く学習を何度も行うことである。その際、話されることの全てを聞き取ろうとするのではなく、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて必要な情報を聞き取ったり、自分の置かれた状況などから何が自分にとって必要な情報であるのか判断した上で聞き取ったりするように指導することが大切である。

【読むこと】

○文と文との関係を正確に読み取り、短い文章の概要を捉えることができるようにする

「概要を捉える」とは、物語や説明文などのまとまりのある文章を最初から最後まで読み、一語一語や一文一文の意味など特定の部分にのみとらわれることなく、登場人物の行動や心情の変化、全体のあらすじなど、書き手が述べていることの大まかな内容を捉えることである。授業改善の視点としては、まず生徒がまとまりのある文章を読む学習を何度も行うことである。概要を捉える際には、各パラグラフ（段落）内の構造を捉えられるようにする。また、文と文との関係を正確に読み取ることは、その構造を捉えるために必要な技能の一つであり、文章の構造を確認しながら授業展開することが大切である。

【書くこと】

○文法事項や言語の働きなどを理解して正確に書けるようにする

正確に書くためには、音声や語彙、表現、文法や言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けておくことが重要である。授業改善の視点としては、まず生徒が文章を書く学習を何度も行うことである。その際、文構造や文法事項、言語の働きなどの知識を活用し、正しい語順で文を構成することや、伝えたいことについての情報を正確に書くことができるようにすることが大切である。

小学校国語

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)				無解答率(%)			
			市	道	国	国との比較	市	道	国	国との比較
1一	米作りのときに記録していた【カード②】と【カード③】の下線部の関係として適切なものを選択する	原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	59.9	62.5	64.7	-4.8	1.0	1.8	1.8	-0.8
1二	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	31.2	23.5	26.7	4.5	5.5	7.7	7.1	-1.6
1三 (1)ア	【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す(いがい)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	58.2	51.6	52.8	5.4	2.4	4.9	4.8	-2.4
1三 (1)ウ	【川村さんの文章】の下線部ウを、漢字を使って書き直す(きかん)		71.6	68.6	72.6	-1.0	4.1	7.6	6.7	-2.6
1三 (2)イ	【川村さんの文章】の下線部イを、送り仮名に気を付けて書き直したのとして適切なものを選択する(くらべて)	送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	93.8	92.7	93.1	0.7	0.0	0.9	1.0	-1.0
1四	【川村さんの文章】の特徴の説明として適切なものを選択する	文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる	80.8	79.7	79.8	1.0	1.0	1.6	2.0	-1.0
2一	【資料1】と【資料2】に書かれている内容として適切なものを選択する	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかをみる	91.8	88.9	90.0	1.8	0.3	1.1	1.2	-0.9
2二	【相田さんのメモ】の空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができるかどうかをみる	64.0	66.3	67.4	-3.4	0.7	1.3	1.4	-0.7
2三	相田さんが【資料3】の情報をどのように整理しているかについて説明したのとして適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	59.6	61.0	62.0	-2.4	0.3	1.4	1.6	-1.3
2四	資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができるそうなることをまとめて書く	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	56.8	53.9	56.2	0.6	5.1	9.0	8.5	-3.4
3一 (1)	【インタビューの様子】の傍線部ア(～ということだと思いますが、合っていますか。)のように質問をした理由として適切なものを選択する	必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる	70.2	72.6	73.6	-3.4	3.1	3.4	3.7	-0.6
3一 (2)	【インタビューの様子】の傍線部イ(～というのは、どのような姿ですか。)のように質問をした理由として適切なものを選択する		70.5	73.2	74.0	-3.5	3.1	3.6	4.1	-1.0
3二	寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く	目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	72.3	70.2	70.2	2.1	12.3	14.4	14.3	-2.0
3三	敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる	57.5	55.7	57.6	-0.1	6.8	8.7	9.5	-2.7

小学校算数

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)				無解答率(%)			
			市	道	国	国との比較	市	道	国	国との比較
1 (1)	5脚の椅子を重ねたときの高さを求める	伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかどうかをみる	94.9	92.5	93.5	1.4	0.3	0.9	0.8	-0.5
1 (2)	椅子の数が2倍になっても、高さは2倍になっていないことについて、表の数を使って書く	伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができるかどうかをみる	84.6	87.7	88.5	-3.9	0.3	1.0	1.0	-0.7
1 (3)	椅子4脚の重さが7kgであることを基に、48脚の重さの求め方と答えを書く	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	48.6	50.8	55.5	-6.9	3.8	4.2	3.4	0.4
1 (4)	全部の椅子の数を求めるために、 50×40 を計算する	一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができるかどうかをみる	78.8	76.6	80.8	-2.0	0.3	1.4	1.2	-0.9
2 (1)	テープを2本の直線で切ってきた四角形の名前と、その四角形の特徴を選ぶ	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる	55.1	60.8	59.8	-4.7	0.0	0.6	0.7	-0.7
2 (2)	テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名前を書く	正方形の意味や性質について理解しているかどうかをみる	86.6	86.9	87.2	-0.6	2.1	3.0	2.9	-0.8
2 (3)	切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときAの角の大きさを書く	正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる	18.2	21.7	24.9	-6.7	1.7	4.2	3.7	-2.0
2 (4)	テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだだけを書く	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係に基づき面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる	16.1	25.5	20.8	-4.7	3.1	4.1	4.0	-0.9
3 (1)	2種類の辞典を全部並べた長さを求める二つの式について、それぞれどのようなことを表しているのかを選ぶ	()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる	65.4	67.8	70.3	-4.9	0.3	1.5	1.4	-1.1
3 (2)	3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを欄に入れることができるかどうかを判断する	示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる	51.7	53.4	56.7	-5.0	6.5	4.6	4.0	2.5
3 (3)	$(151 + 49) \times 3$ と $151 \times 3 + 49 \times 3$ を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める	加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる	69.5	69.1	72.4	-2.9	3.8	2.8	2.5	1.3
3 (4)	$66 \div 3$ の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ	(2位数) \div (1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる	44.9	45.6	47.6	-2.7	3.1	4.4	3.9	-0.8
4 (1)	示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ	百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる	33.9	45.1	46.0	-12.1	2.1	2.7	2.4	-0.3
4 (2)	運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める	「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかどうかをみる	71.9	74.2	75.7	-3.8	4.5	4.9	4.3	0.2
4 (3)	二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く	示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる	56.5	54.3	56.2	0.3	12.0	14.9	13.8	-1.8
4 (4)	二次元の表から、読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶ	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる	57.5	63.2	64.6	-7.1	5.8	5.4	4.9	0.9

中学校国語

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)				無解答率(%)			
			市	道	国	国との比較	市	道	国	国との比較
1一	インタビューの前に準備したメモについて説明したのとして適切なものを選択する	目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる	85.8	87.6	87.5	-1.7	0.0	0.1	0.1	-0.1
1二	インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	68.9	65.0	65.1	3.8	0.0	0.1	0.2	-0.2
1三	相手の話を受けて発した質問について、述べ方の工夫とその意図を説明したのとして適切なものを選択する	話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるかどうかをみる	73.6	76.1	76.6	-3.0	0.0	0.1	0.2	-0.2
1四	インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く	聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	75.3	81.7	82.5	-7.2	15.5	11.9	10.8	4.7
2一	「落胆する」の意味として適切なものを選択する	事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうかをみる	89.9	91.8	91.1	-1.2	0.3	0.1	0.2	0.1
2二	二つの文章に共通する表現の効果を説明したのとして適切なものを選択する	観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる	55.1	63.7	63.0	-7.9	0.3	0.3	0.4	-0.1
2三	それぞれの文章で述べられている「読書の楽しみ」として適切なものを選択する	文章の中心的部分と付加的部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができるかどうかをみる	62.5	73.7	74.2	-11.7	0.7	0.2	0.3	0.4
2四	自分がこれからどのように本を読んでいきたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く	文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる	60.1	65.6	67.5	-7.4	6.1	4.3	3.9	2.2
3一	レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する	読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる	43.9	54.1	54.3	-10.4	0.7	0.5	0.6	0.1
3二	漢字を書く（おし量って）	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	34.8	41.1	43.9	-9.1	15.5	11.5	10.7	4.8
3三	「『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた部分について、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに付ける見出しを書く	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	51.7	62.3	61.8	-10.1	2.7	2.1	2.1	0.6
3四	「『判じ絵』の解説の面白さ」と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解説の仕方を書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる	57.4	70.1	72.1	-14.7	20.3	11.9	10.2	10.1
4一	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（いひける）	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる	73.0	82.5	82.5	-9.5	6.4	3.5	3.6	2.8
4二	原文の中の語句に対応する言葉を現代語で書かれた文章から抜き出す（いと）	古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えることができるかどうかをみる	64.5	75.3	74.1	-9.6	11.1	5.0	4.8	6.3
4三	現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる	40.5	50.1	50	-9.5	31.8	22.7	20.7	11.1

中学校数学

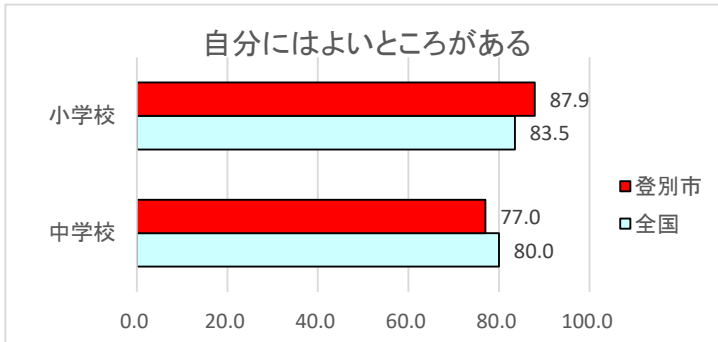
問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)				無解答率(%)			
			市	道	国	国との比較	市	道	国	国との比較
1	-5、0、3、4、7、9の中から自然数を全て選ぶ	自然数の意味を理解しているかどうかをみる	47.3	49.9	46.1	1.2	0.0	0.1	0.1	-0.1
2	$12(x/4 + y/6)$ を計算する	数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる	70.9	79.7	80.5	-9.6	6.1	4.4	4.0	2.1
3	空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ	空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかどうかをみる	21.6	30.6	30.4	-8.8	0.3	0.6	0.8	-0.5
4	y が x に反比例し、比例定数が3のとき、 x の値とそれに対応する y の値について、正しい記述を選ぶ	反比例の意味を理解しているかどうかをみる	46.3	41.7	42.8	3.5	0.0	0.5	0.5	-0.5
5	女子50m自由形の記録の、最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数を求める	累積度数の意味を理解しているかどうかをみる	38.5	39.4	46.1	-7.6	12.8	13.0	11.0	1.8
6(1)	はじめの数が11のとき、はじめの数にかけられる数が2、たす数が3のときの計算結果を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる	85.1	88.1	88.9	-3.8	4.1	2.8	2.4	1.7
6(2)	はじめの数にかけられる数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	42.2	53.3	58.8	-16.6	25.0	13.3	10.6	14.4
6(3)	はじめの数にかけられる数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する	結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる	25.3	37.5	40.9	-15.6	40.2	28.1	24.7	15.5
7(1)	1961年～1975年の四分位範囲を求める	四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる	55.4	62.5	65.7	-10.3	8.4	6.8	5.6	2.8
7(2)	「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	17.2	31.5	33.6	-16.4	37.8	25.0	22.8	15.0
8(1)	晴天大学が駅前を通過した時間と新緑大学が駅前を通過した時間の差について、グラフのどの2点のx座標の差として表れるかを書く	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる	46.6	55.8	57.5	-10.9	13.9	9.9	8.6	5.3
8(2)	二人の選手のグラフが直線で表されていることの前提となっている事柄を選ぶ	事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる	47.0	59.0	61.7	-14.7	1.7	1.1	1.1	0.6
8(3)	グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、6区スタート地点からおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	27.4	42.2	42.8	-15.4	17.6	15.2	13.2	4.4
9(1)	2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる	18.9	31.2	32.1	-13.2	39.9	26.7	24.7	15.2
9(2)	二等辺三角形でない2つの合同な三角形のときに平行線がかけないことについて、二等辺三角形のときの証明の中から成り立たなくなる式を書く	条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるかどうかをみる	26.4	36.9	37	-10.6	25	15.1	14.2	10.8

中学校英語

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)				無解答率(%)			
			市	道	国	国との比較	市	道	国	国との比較
1 (1)	ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	69.7	77.6	79.0	-9.3	0.0	0.1	0.1	-0.1
1 (2)	道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	57.1	65.9	64.4	-7.3	0.0	0.2	0.2	-0.2
1 (3)	買物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	40.5	47.1	49.8	-9.3	0.0	0.2	0.2	-0.2
2	忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する	日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	58.2	60.6	61.1	-2.9	0.0	0.2	0.2	-0.2
3	バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	38.8	41.5	41.2	-2.4	0.0	0.2	0.2	-0.2
4	水問題についての話を聞き、話し手の最も伝えたい内容を選択する	社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるかどうかをみる	52.0	56.2	54.8	-2.8	0.0	0.4	0.4	-0.4
5 (1)	ある状況を描写する英文を読み、その内容を最も適切に表しているグラフを選択する	情報を正確に読み取ることができるかどうかをみる	45.9	52.9	56.0	-10.1	0.0	0.2	0.3	-0.3
5 (2)	事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する	「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかどうかをみる	49.0	61.5	64.5	-15.5	0.0	0.2	0.3	-0.3
6	友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる	20.1	32.6	35.9	-15.8	0.0	0.2	0.3	-0.3
7 (1)	図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する	文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる	43.2	58.2	59.8	-16.6	0.0	0.3	0.3	-0.3
7 (2)	図書館について書かれた英文を読み、その概要として最も適切なものを選択する	日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる	26.5	33.0	34.7	-8.2	1.0	0.7	0.7	0.3
8 (1)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択する	社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる	43.2	53.7	56.1	-12.9	0.7	0.8	0.8	-0.1
8 (2)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く	社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる	10.9	17.2	19.5	-8.6	48.0	33.1	29.3	18.7
9 (1) ①	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる	26.2	37.1	40.4	-14.2	10.2	7.7	6.6	3.6
9 (1) ②	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる	9.5	15.6	20.9	-11.4	15.3	13.0	10.9	4.4
9 (2)	メールの英文を依頼する表現に書き換える	「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる	17.0	29.3	29.0	-12.0	39.1	26.8	24.5	14.6
10	学校生活(行事や部活動など)の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる	4.1	6.3	7.4	-3.3	36.7	25.9	21.4	15.3

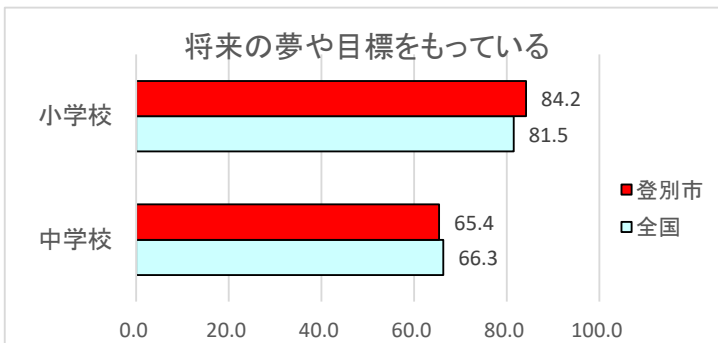
児童・生徒質問紙調査より①

□自分について①



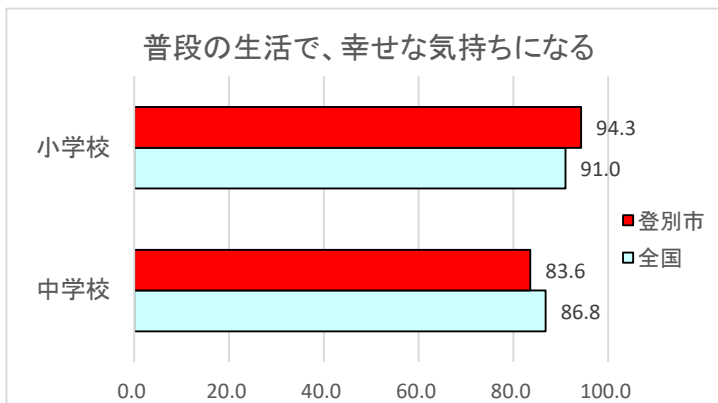
肯定的な回答をした小学生は87.9%で、中学生は77.0%。全国と比べて、小学校で4.4ポイント高く、中学生は3.0ポイント低い。

小学生では、全国比べて自己肯定感が高い結果となっているが、小中学校が連携し、継続した自己肯定感の醸成が求められる。



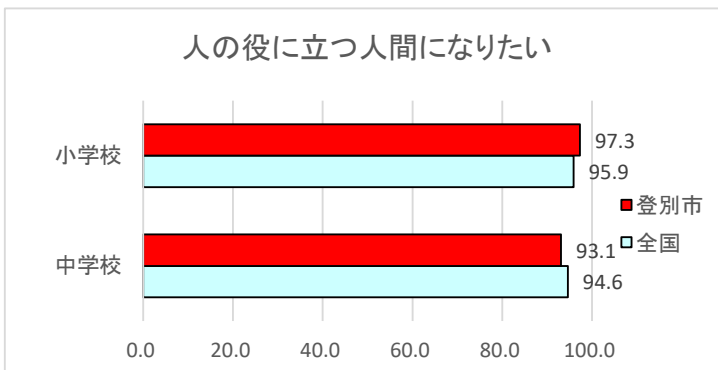
肯定的な回答をした小学生は84.2%、中学生は65.4%。全国と比べて、小学生で2.7ポイント高く、中学生で0.9ポイント低い。

全国と比べてあまり差はないが、学校生活で自分の役割の価値や自分との関係を見出し、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度をを今後も育成していきたい。



肯定的な回答をした小学生は94.3%、中学生は83.6%。全国と比べて、小学生3.3ポイント高く、中学生で3.2ポイント低い。

全国と比べてあまり差はないが、学校生活において、心理的安全性が確保された環境づくりを引き続き進めていきたい。

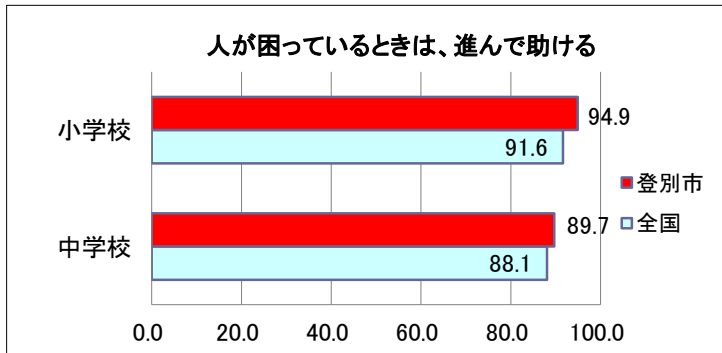


肯定的な回答をした小学生は97.3%、中学生は93.1%。全国と比べて、小学生は1.4ポイント高く、中学生は1.5ポイント低い。

全国と比べてあまり差はないが、人「の役に立つ人間になりたい」という思いをもっている小中学生が多いことが伺える。

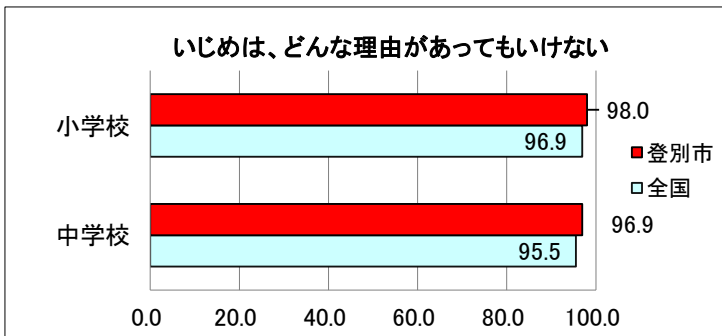
児童・生徒質問紙調査より②

□自分について②



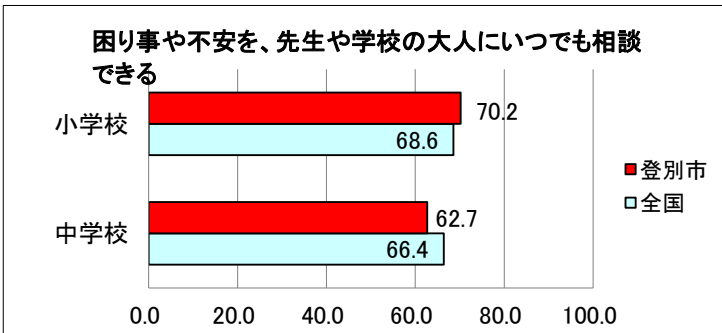
肯定的な回答をした小学生は94.9%、中学生は89.7%。全国と比べて、小学生は3.3ポイント高く、中学生は1.6ポイント高い。

全国より肯定的な回答の比が高い結果から、登別市の小中学生の心の温かさが伺える。



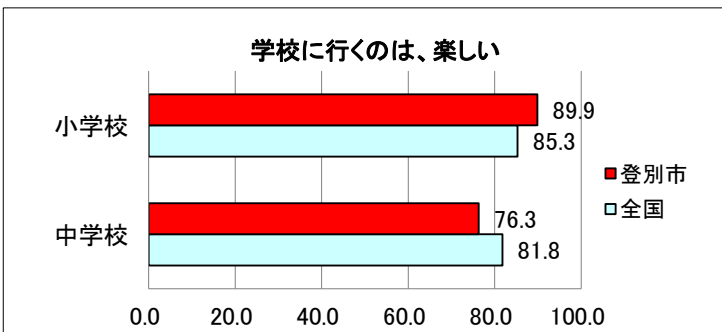
肯定的な回答をした小学生は98.0%、中学生は96.9%。全国と比べて、小学生は1.1ポイント、中学生は1.4ポイント高い。

全国より肯定的な回答の比が高い結果から、登別市の小中学生の規範意識の高さが伺える。鬼っ子フォーラム等、みんなが通いたくなる学校づくりの取組も肯定的な回答率が高い要因と考える。



肯定的な回答をした小学生は70.2%、中学生は62.7%。全国と比べて、小学生は1.6ポイント高く、中学生は3.7ポイント低い。

今後も学校での心理的安全性を確保し、SOSを出しやすい関係づくりが求められる。

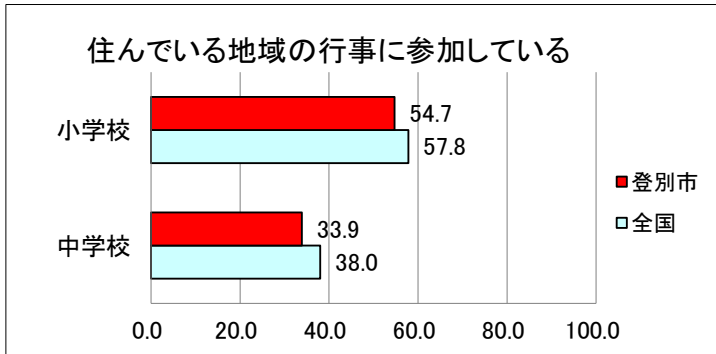


肯定的な回答をした小学生は89.9%、中学生は76.3%。全国と比べて、小学生は4.6ポイント高く、中学生では、5.5ポイント低い。

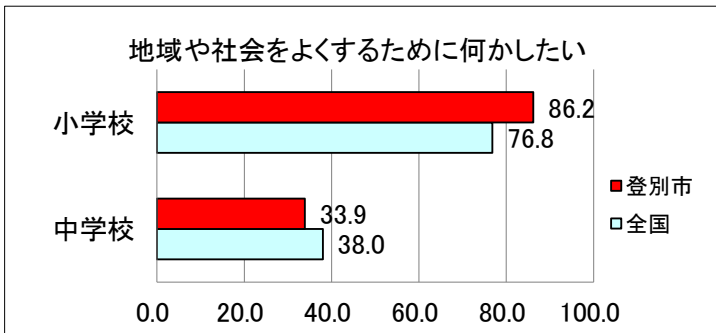
今後も小中学生が主体となって、みんなが通いたくなる学校づくりを進め、教職員が支えていくことが大切である。

児童・生徒質問紙調査より③

□地域・人との関わりについて

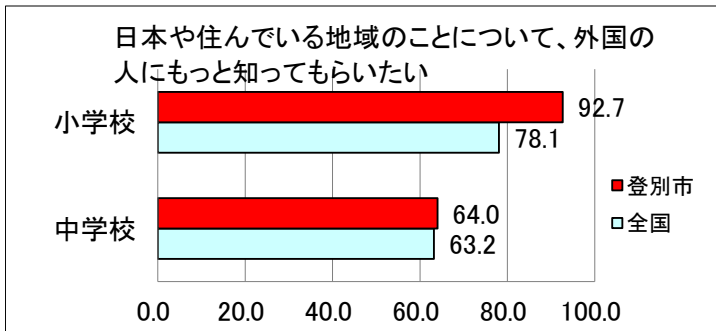


肯定的な回答をした小学生は54.7%、中学生は33.9%。全国と比べて、小学生は3.1ポイント、中学生は4.1ポイント低い。新型コロナウイルス感染症対策のため、地域の行事が少なかったことが要因と考えられる。



肯定的な回答をした小学生は86.2%、中学生は33.9%。全国と比べて、小学生は9.4ポイント高く、中学生は4.1ポイント低い。

地域を担う人材の育成という観点から、地域・社会の理解を促す取組や教育活動の一層の推進が求められる。「地域や社会の一員である」という意識を高めるようにしたい。

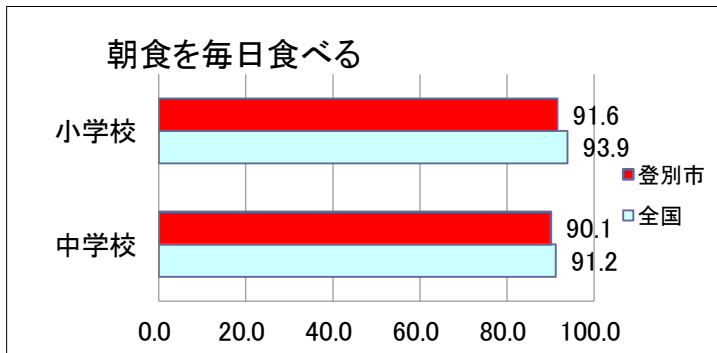


肯定的な回答をした小学生は92.7%、中学生は64.0%。全国と比べて、小学生は14.6ポイント高く、中学生は0.8ポイント高い。

日本や登別のよさを感じていて、それを伝えたいという思いをもっていることが伺える。

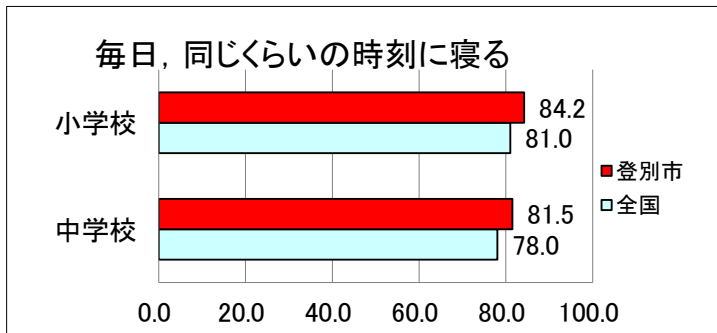
児童・生徒質問紙調査より④

□家庭生活について

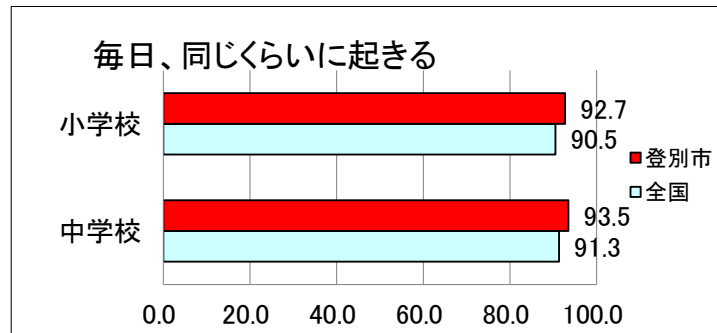


肯定的な回答をした小学生は91.6%、中学生は90.1%。全国と比べて、小学生は2.3ポイント、中学生は1.1ポイント低い。

全国と比べてあまり差はないが、引き続き「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身に付くよう促していきたい(以下2つの質問についても同様)。



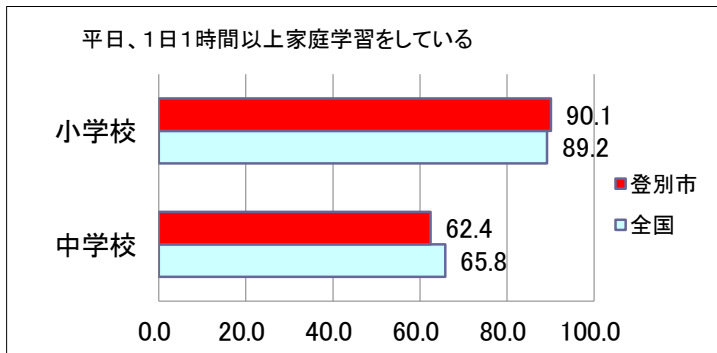
肯定的な回答をした小学生は84.2%、中学生は81.5%。全国と比べて、小学生は3.2ポイント、中学生は3.5ポイント高い。



肯定的な回答をした小学生は92.7%、中学生は93.5%。全国と比べて、小学生は2.2ポイント、中学生も2.2ポイント高い。

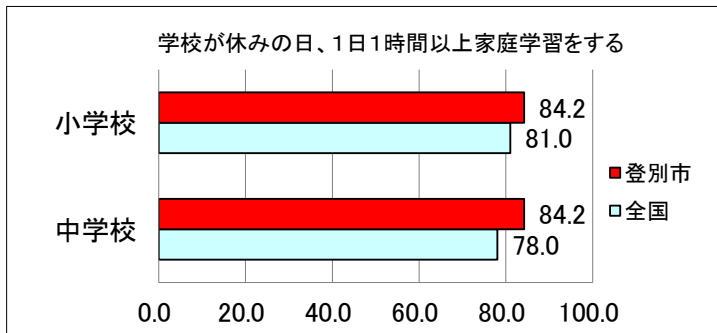
児童・生徒質問紙調査より⑤

□家庭学習について



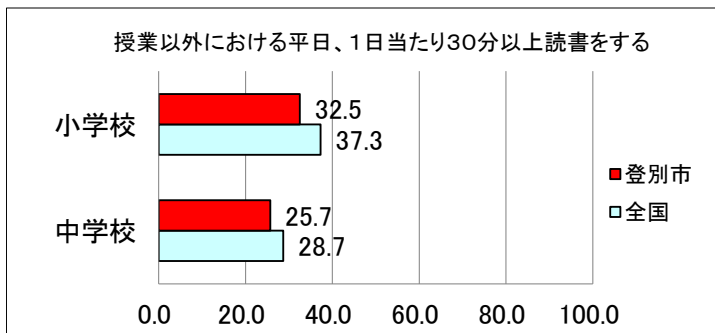
肯定的な回答をした小学生は90.1%、中学生は62.4%。全国と比べて、小学生は0.9ポイント高く、中学生は3.4ポイント低い。

家庭学習時間について、小学生は全国とほぼ同等であるが、中学生はやや下回っていることや学習内容の定着については全国を下回っているものが多いことから、家庭学習の質の向上が求められる。



肯定的な回答をした小学生中学生はともに84.2%。全国と比べて、小学生は3.2ポイント、中学生ともに6.2ポイント高い。

学校が休みの日の学習時間は全国をやや上回っているが、学習内容の定着については全国を下回っているものが多いことから、家庭学習の質の向上が求められる。

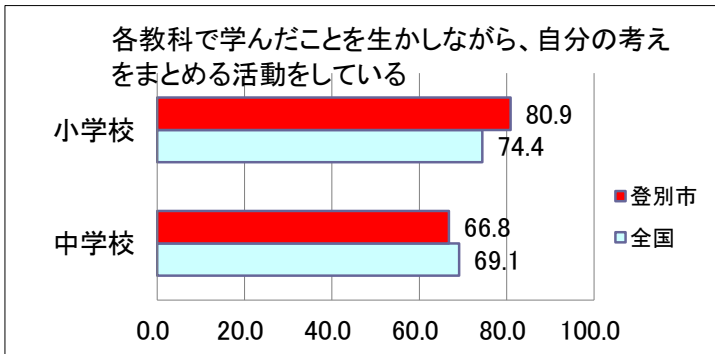


肯定的な回答をした小学生の割合は32.5ポイント、中学生は25.7ポイント。小学生は4.8ポイント、中学生は3ポイント低い。

全国と比べて読書時間が短いことが伺える。小中学生が本を借りやすい図書室の整備等を進めていきたい。

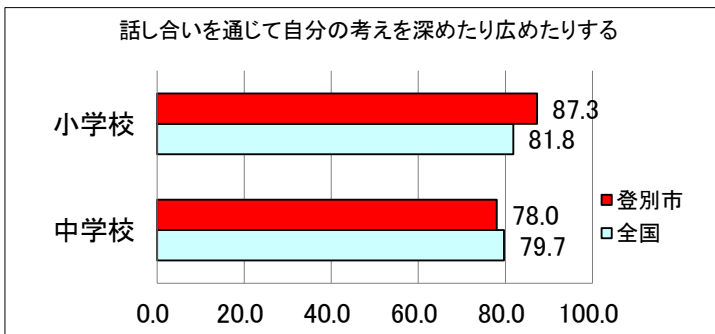
児童・生徒質問紙調査より⑥

□学校での学習について



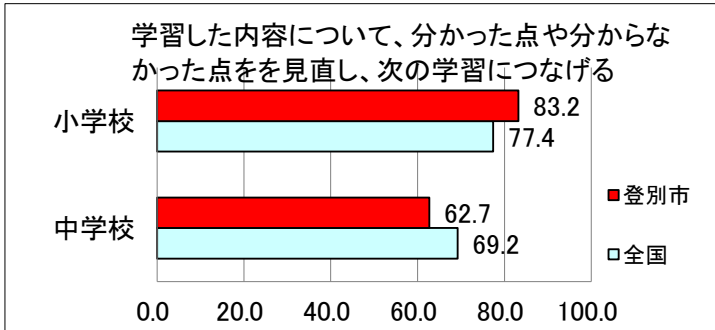
肯定的な回答をした小学生は80.9%、中学生は66.8%。全国と比べて、小学生で6.5ポイント高く、中学生で2.3ポイント低い。

すべての教科の授業において、知識・技能の定着にとどまらず、身に付けた知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力の育成を意識した授業づくりや授業での考えをまとめる場や機会を確保することをが大切である。



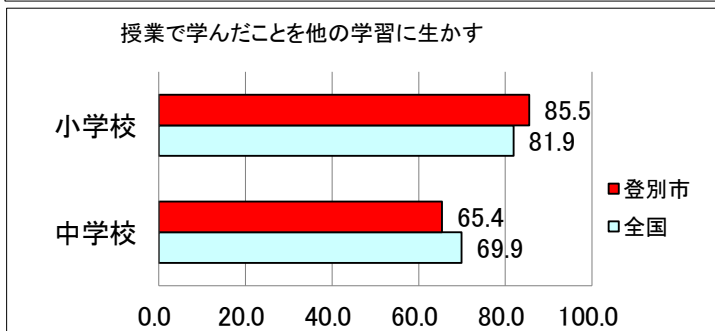
肯定的な回答をした小学生は87.3%、中学生は78.0%。全国と比べて、小学生は5.5ポイント高く、中学生で1.7ポイント低い。

協働的な学びのある授業づくりが大切である。



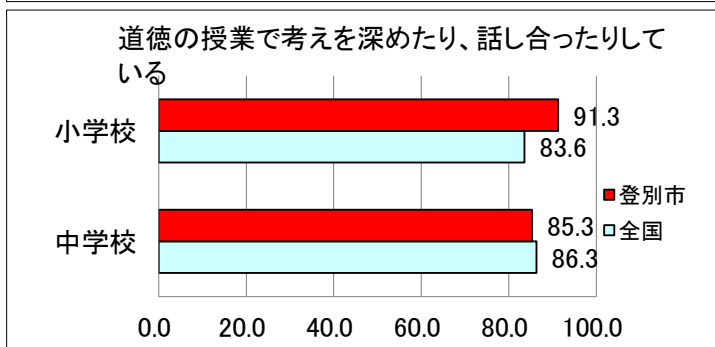
肯定的な回答をした小学生は83.2%、中学生は62.7%。全国と比べて、小学生は5.8ポイント高く、中学生は6.5ポイント低い。

授業において、振り返りの場や機会を設けることが、次の学習の見通しもつことになる。このことが、主体的な学びの1つであるため、振り返りを位置づけた授業づくりが一層求められる。



肯定的な回答をした小学生は85.5%、中学生は65.4%。全国と比べて、小学生は3.6ポイント高く、中学生は4.5ポイント低い。

意図的に同一教科で過去に学んだことを活用したり、他教科で学んだ学習内容を活用したりする場や機会を設定することが求められる。中学校では、教科担任同士が教科横断的な指導について連携し合うことが大切である。

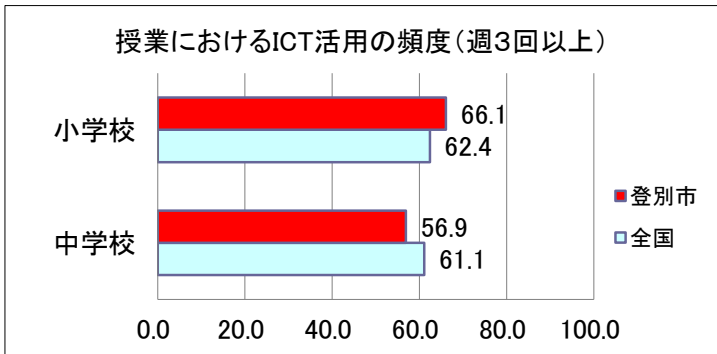


肯定的な回答をした小学生は91.3ポイント、中学生は85.3ポイント。全国と比べると、小学生は7.7ポイント高く、中学生1.0ポイント低い。

小学校では、全国と比べて肯定的な回答の比が高いが、学習指導要領に掲げられている特別の教科道徳の目標を改めて確認し、考え議論する授業づくりが一層求められる。

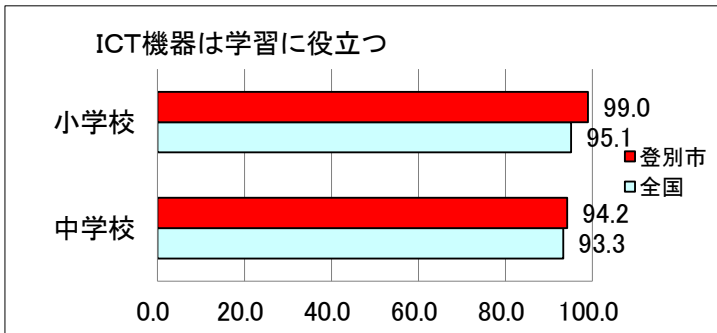
児童・生徒質問紙調査より⑦

□ICT機器の活用について



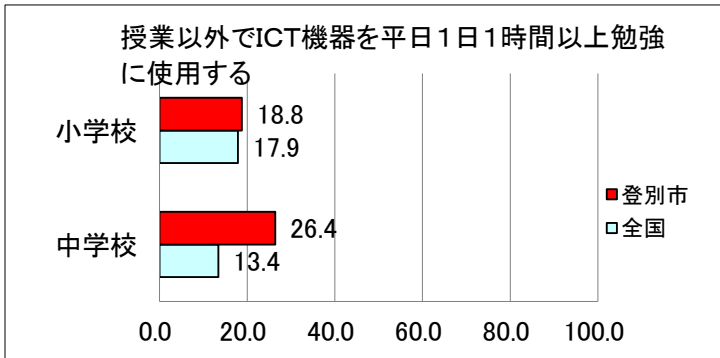
「授業において週3回以上ICTを活用している」と回答した小学生は66.1ポイント、中学生は56.9ポイントで、全国と比べると、小学生は3.7ポイント高く、中学生は、4.2ポイント低い。

授業におけるICT機器の効果的な活用をより一層進めたい。



「ICT機器は学習に役立つ」と回答した小学生は99.0ポイント、中学生94.2ポイント。全国と比べて、小学生は3.9ポイント、中学生は0.9ポイント高い。

ICT機器が学習に役立つことを実感している小中学生が多いことから、引き続きICTを効果的に活用した授業づくりを進めたい。



「授業以外でICT機器を平日1日1時間以上勉強に使用している」と回答した小学生は18.8%、中学生は26.4%。全国と比べて、小学生は0.9ポイント、中学生は13ポイント高い。

ICT機器の活用が今後も進むことが予想されるので、授業以外での使用時間が増加することが考えられる。